



研修医の手記

権 裕河



안녕하세요 (アニョハセヨ)。
はじめまして。本年度4月より市立
釧路総合病院で初期臨床研修医
としてお世話になっております。
権裕河と申します。私は生まれも
育ちも札幌ですが、国籍は韓国で、
ソウルに住んでいた時期もあります。

市立釧路総合病院には様々な診療科があり、同時に救
急科をしっかり学べるという点から興味を持ち、実習
や病院見学で何度も来るうちに、涼しい気候と温かい
病院の雰囲気に惹かれ、研修を申し込ませていただき
ました。まだ釧路にきて3か月ですが、キャンプや湖で
のSUP、海鮮など、道東の自然や食の豊かさを満喫し
ております。ここ数日は湿度の高い釧路の予想外な暑さ
に驚いています。

日々の診療では自分の未熟さと、学ぶべきことの
多さを痛感しながらも、指導医の先生方と病院ス
タッフの皆様、患者様から様々なご指導をいただく
日々を送っております。特に当直業務では、慣れな
い深夜の勤務ということもあり、自分の無力さに直
面することも多々ありますが、その一方で今までで
きなかったことが一つ一つできるようになっていく
ことに達成感も覚えています。2年間の研修を通し
て、医師としてだけでなく、一人の人間として成長
するとともに道東、ひいては北海道の医療に貢献で
きるように日々精進してまいりますので、ご指導ご
鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

エキスパートナース紹介 Part.27



私は、当院において新たな分野となる「食」に関わる認定看護師です。「口から食べる」
ことは体を守る上で大切ということはみなさんご存じだと思います。病院の中では、身体や心の病気、また
加齢に伴って、思ったように食事を取ることができず、治療が進まない方、回復が遅れてしまう方がさまざ
ま見受けられます。私は治療における「食」を支えていく看護師として知識技術を深めようとエキスパート
への道を目指しました。資格取得については、若いとは言いがたい年齢で、新たに取り組むことに心配もあり
ましたが、上司や先輩の温かい支えがあり進学に踏み切りました。何より家族の支えあって最後までやり切
ることができました。また、当院は資格取得についての支援が充実していることも後押しになりました。摂
食嚥下障害を持つ患者さんとの関わりは、看護を行う上での原点とも感じています。考えたように進まない
こともあり、困難さを感じますが、「食べられて、良かった」という患者さんの言葉や食事を摂れた時の笑
顔が原動力となっています。

「食」は、栄養を保持増進するだけではなく、免疫機能の向上や、何より食事機会を通して、人との
つながりが生まれます。「口から食べる」は、人それぞれの文化があるため、培ってこられたものを尊重し、
「食べたい」を支えていく活動を行っていききたいと思います。

私が携わる活動としては、飲み込みや誤嚥についての知識普及、食事介助に携わるケアワーカーへの技
術向上支援、食べる口を作る口腔ケア指導、身体機能変化に合わせた栄養経路の相談、精神疾患や認知症
への食支援など多岐にわたります。しかし、私だけの力では全てに働きかけることはできません。当院には、
「食」に携わる栄養サポートチームをはじめ、耳鼻咽喉科、歯科、言語聴覚士、管理栄養士、そして、外来
や入院病棟を支える心強い看護師の方々があります。協力いただける方々とチームを組んで取り組んでいき
たいと考えています。また当院に関わらず、地域で活動されている摂食嚥下障害を支えるリソースがたく
さんありますので、つながりを深めて地域の力になっていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

摂食嚥下障害看護認定看護師 中野 侑治



市立釧路総合病院

発行責任 広報委員会

〒085-0822 釧路市春湖台1番12号
TEL(0154)41-6121・FAX(0154)41-6511



ホームページ



Instagram

市立釧路総合病院



連携ニュース 春湖台

第37号：令和7年7月31日発行

ご挨拶



市立釧路総合病院 院長

森田 研

新棟の建築は予定通り進んでおり、地下に免震装置を設置する作業
を8月下旬より行います。駐車場の縮小により、皆様には大変ご不便
をおかけしております。2027年の新棟竣工後、旧病棟を解体し新駐車
場を整備し、2029年には混雑が解消される見込みです。新駐車場の整
備が行われるまで、立体駐車場から臨時玄関までの動線上に誘導案内
員を配置しています。今後しばらく工事車両の出入りが続きますので、
建設現場と皆様の動線上の安全確保に努めます。

新棟の新たな構想である(1)患者サポートセンターと(2)救命救急病
棟については、新棟が完成する2年後に開設を行うのではなく、新棟
と同じ組織・人員・部門を早期に構築することにより診療部門移動が
スムーズにできるよう、現行の組織を改編して前倒し運用を行います。

(1)患者サポートセンターについては、今年4月から総合受付の待合エリアにおいて旧・医療
連携相談室を拡張し、通路対面の入退院支援センター機能を統合する形で運用を開始しました。
入院前の早期からリスク評価を行い、社会的・精神的な問題に対応する治療計画と退院後の
早期回復期サポートを多職種で行うシステムです。

(2)救命救急病棟の開設については、8月に1階病棟をハイケアユニット(HCU)化し、呼吸管
理をはじめとするHCUを現行の3床から8床へ増床し、最終的には新棟の救命救急病棟(16床)
に移行します。集中治療室(ICU)は現在12床で運用しており、新棟では手術室と同じ階に直結
したICUとして機能します。

このほか、病床移行のシミュレーションなどを行い、新棟への移行準備を始めています。地域
の患者・医療機関のみならず、当院の状況についてご理解とご協力をよろしく
お願いいたします。

理念「信頼と満足の創造」

経営方針

- 十分な説明のもとに患者の意思を尊重し、患者中心の医療を行います。
- 地域完結医療を目指し、高度医療・救急医療を充実します。
- 地域医療を支援するため、病診連携を密にします。
- 心温かな質の高い医療サービスを実践するため、日々研鑽します。
- 良識と協調性のある医療人として、意欲と誇りの持てる職場環境づくりに努めます。

～がん遺伝子パネル検査を導入しました～

病理診断科 診療部長 瀬川 恵子

日本では2019年からがん遺伝子パネル検査（CGP検査）が保険適応となり、高度医療施設を中心にCGP検査がはじまりました。当院では、従前は検査を希望する患者を札幌の大学病院に紹介していましたが、札幌への移動は患者のからだには負担であり、検査提出から1～2ヶ月後の結果報告時に必ず外来受診しなければならない点を考慮すると、紹介可能な状態のよい患者は限られ、CGP検査への敷居の高さを感じておりました。



病理標本作成風景

そこで、当院からCGP検査の検体を直接提出できるよう施設条件を整備し、2024年10月にがんゲノム医療連携病院の指定を受けました。2025年5月現在までに13例提出し、うち6例に保険で投与可能な薬剤が見つかり、検査提出前にコンパニオン診断等で投薬済みの薬剤を含む。



顕微鏡とディスカッション用モニター

検査に提出する検体は原発巣や転移巣の病理検体から作成した未染標本です。適切な病理検体がない場合は、当院外来で採血を行い、血液検体でCGP検査を実施します。

投与可能な薬剤が見つかる確率は低いものの、がん治療の選択肢の一つとしてCGP検査を提供してまいります。

～心不全チームの活動について～

看護課 循環器内科 専門員 本間 渉

当院では令和6年度から、心不全の患者さんの再発予防と生活の質の向上を目的とした「心不全チーム」を立ち上げました。主なメンバーは循環器内科 加藤医師を中心に、看護師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーなどであり、多職種が連携し、急性期から退院後の生活まで一貫した支援を行っています。患者さん一人一人に合わせた治療や生活指導を行い、再入院の防止や在宅療養の支援に力を入れています。

院外の活動では、当院よりも先に心不全チームを立ち上げている名寄市立総合病院へ視察に行き、地域との関わりなどを学びました。また、地域のみなさんにも心不全を理解してもらうために、加藤医師と看護師が講師となり令和7年2月に一般市民講座を実施したほか、連合町内会が発行する広報誌でコラムの連載をしています。今後は、令和7年10月に釧路市等が主催するくしろ健康まつりに参加し、心不全についての啓蒙活動を行う予定です！

チームとしては日が浅いですが、情熱がある熱いメンバーが集結しています。

これからも、その情熱を絶やさず、心不全患者さんやその家族さんが暮らしやすい環境を提供できるよう日々精進していこうと思います。

市立釧路総合病院 心不全チームをよろしくお願いします！！



名寄視察



市民講座



患者サポートセンターを開設しました

令和7年4月、患者サポートセンターを開設しました。従前の医療連携相談室を医療連携相談室と入退院支援室の2つの組織に再編し、それぞれの業務に専念することで、患者サービス向上・拡大を目指します。



医療連携相談室では相談窓口を充実させ、特になん相談や精神相談に力を入れています。連携については地域の医療介護関係の皆様のご意見を聞かせていただくために、渉外活動を行っています。

入退院支援室では、安心して入院、治療を受けていただくために、看護師だけでなく、栄養士、理学療法士、薬剤師、社会福祉士の多職種で入院前から継続したサポートを行います。また、患者さん、ご家族の意思を尊重しながらの退院調整を継続して行っています。新棟運用開始に向けて、今後も役割の充実を目指してまいります。

どんなことをしているの??

患者サポートセンター

医療連携相談室

地域連携担当

予約受付 地域広報

- ・紹介状を持ってきたが、どうしてよいかわからない。
- ・受診の予約をしてほしい。

医療相談担当

医療相談 がん相談
セカンドオピニオン

- ・出産の費用が不安…。
- ・がんと診断されて不安だ。
- ・セカンドオピニオンをしたい。

入退院支援室

入退院支援室

入院前受付 退院・転院調整
訪問看護

- ・退院が決まったけど介護の方法がわからない。
- ・最後まで自宅で生活したいのでいろいろと協力してほしい。
- ・施設に入りたいと思っているけれどどこが良いかわからない。

病院の利用や療養生活でわからないことは
まずはセンターに聞いてみてください!!